

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2025.02.No330

2月号

目次

実行委員会報告	
新年の活動方針等について	1
特別活動報告	4
地域貢献活動報告	6
Coffee Break	7
information	8

URL <https://www.h-ab.com/>

実行委員会報告

新年の活動方針等について

総務・企画委員会

振り返りと、次の1歩の結果は。

委員長
高橋 幸二



『出来る人が、出来る時に、出来ない時は、出来る人を探し、応援し、出来ることから逃げないこと。』から、【振り返りと、次の1歩】を具体的に提案してのスタートでした。

結果の一つ目は、第46回全道大会（日高大会）です。1日大会として

開催出来ました、委員会の負担は減ったと思います。そして、分科会方式から、ワールドカフェ（ひだカフェ）とした、全体参加型も、参加意識としての具体的な実感を得られたと思います。さらに、懇親会にて、来賓席を廃止しての指定席スタイルでは、広い交流と深い懇親が出来たと思います。次期の中標津大会へと繋がれると次のステップになりそうと期待もしています。

二つ目は、青年層の年齢既定の統一設定ですが、狙いの思惑が伝わり切れていない感じで、各支部から難

しいとの声が多いです。ちなみに、会費値上げも一緒ですが、在籍者の思いが強く、若者がいない、会費が高いと入りづらい、値上げだと辞める、などは、その象徴だと思います。もう少し声を聞きたいと思います。

何事も、平時だと穏便かつ波風立たずに進みますが、振り返ると何もなかったこともあります。ちょっと視点を変えて、小石を投げて、波に風を起こせば次の1歩が見えることも。最後の年、走り抜きたいと思います。叱咤激励をお願いしたいと思います。

事業委員会

新規講習会等活動へ

委員長
林 昌宏



昨年委員長になり委員みんなに支えられ、1年が経ちました。昨年を振り返ると「特別活動費」事業が令和7年度事業に対する応募がなく、かつ本会が継続的財源をまとめて確保できない状況にあることか

ら、令和8年度事業から一旦募集を中止する事になりました。

その他昨年度、当委員会の開催した所管事業は「既存住宅状況調査技術者講習」「その他講習会4事業」でした。

本年度も昨年同様の講習会を予定しております。

更に特別活動費事業が中止した事から昨年も急遽予定してなかった講習会を開催していますので、本年度からは建築士会会員様やその会員様に係る人達のためになる講習会やセ

ミナーや研修会等、開催したい方がいましたら、事業委員会でお手伝いさせていただきますので、気軽にお声掛け下さい。

時期や場所や案内や進行等ご協力出来る事はあるかと思えます。

また「既存住宅状況調査技術者講習」も開催しますし昨年同様継続して行う講習会も有ります。多くの会員様が受講できるように、時期や場所を選考して参りますので是非とも多くの方の受講をよろしく願い致します。本年度も宜しく願い致します。

情報委員会

魅力ある情報の発信

委員長
前田 繁



委員長を引き受けてから1年が過ぎましたが、情報委員としては3期目になります。特に2期目はコロナ禍の真っ只中により軒並み、各委員会は活動が出来なくつらい状況、情報委員会でも対面協議も出来ず、情報発信に四苦八苦した記憶が御座い

ます。

情報が無いなら情報委員自らの取材により盛り上げる思いで、地域密着情報として西から東からを定期的に発信させて頂き、まずまずの反響がありましたので、会員からより魅力ある発信が出来ればよりよい情報誌になると思えます。委員会ではより面白みのある案はいろいろ出ているのですが、実際に載せるところまで想定するとどうだろう？との内容もあり迷走傾向に嵌まることも多々ございますが、本間会長と北海道にゆかりある著名人との対談を是

非載せたいよね～ってという提案は一士会員としてみても魅力が感じられ、かつ士会の顔である会長をより身近に感じて頂けるのではないかとと思われるところで御座います。著名人次第など大きなと思われるかもしれませんが～委員会ではこのような案を練り上げ、実現したら面白いと感じて頂けることを考えながら、魅力ある情報発信が出来よう考えております。是非皆様からも、読んで面白いと感じられるご意見、企画等、頂けること願っております。

まちづくり委員会

令和6年の振り返りと
令和7年の計画

委員長
松本 純



まちづくり委員会委員長の札幌支部 松本です。今期どうぞよろしくお願いたします。

まちづくり委員会では、昨期『北海道まちづくり会議』では観光バリアフリーをテーマに当事者の方、実践活動されている方をお招きして勉強会・情報提供を行いました。『ま

ちづくりフォーラム』では旭川支部と共催でまちあるきと講演、ワークショップを行い、旭川市の歴史、現状、未来を語る場となりました。

ご参加いただいた皆様、企画運営をしていただいた皆様には改めて感謝申し上げます。

今年の『まちづくり会議』は、景観まちづくりをテーマにして、景観について改めて考えると共に、景観行政の現状や、景観整備機構として北海道建築士会の役割なども話し合ってみたくと考えております。『まちづくりフォーラム』では、網走市

に伺いコロナ禍で残念ながら開催が中止となった全道大会網走大会を想いながらいちまち歩きや講演・ワークショップを予定しております。加えてもう一つ、まちづくりを各支部の方・一般の方と交流しながら学ぶ場を設けたいと考えております。

こういった活動を通じて、建築士会本部・各支部、行政、一般の方との情報共有や交流を行い、北海道のまちづくり活動に寄与したいと考えております。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

青年委員会

真価が問われる年

委員長
吉田 徹



青年委員会 委員長を就任して1年が経ちました。就任当初、本誌にて活動方針を「新たなスタート」としてさせて頂きました。Withコロナということで過去の良い事業をブラッシュアップして事業を実施いたしました。大きな成果としては、「建

築士お仕事体験フェス」を開催し全国大会の青年セッションにおいて最優秀賞を頂きました。子供たちへ建築士の楽しさを伝える有用な事業として、今年も引き続き、青年の皆さまの負担になりすぎないように進めてまいります。

昨年度、「会費の値上げ」「青年の定年制」など青年層において大きな変化をもたらす議題が提案されました。事業へ参加する新規の若手の方が増加しない一方、以前から青年事業への有益性を感じ参加していただ

いている方々が次々と青年を卒業しています。人材の新陳代謝が求められる中での会費値上げ議論。業界全体の人材不足により、時間もお金も厳しい若手を呼び込むには建築士会全体として考えていく必要があると感じています。まずは、青年からという思いで青年委員会として議論を深め、より具体的な事業の提案を行っていきたくと思います。皆様のご支援、どうぞよろしくお願いたします。

女性委員会

R6年総括 R7年抱負

委員長
後藤 朋恵



R6年の女性委員会では委員会3回小委員会6回と活発な委員会回数が見えます。集いは北海道遺産「江別のレンガ」をめぐるを題して、北海道博物館を鈴木明世研究職員による解説付きで見学し、石垣秀人氏のご協力により米澤レンガ工場を特別

に見学させていただくという贅沢な見学会でした。全道大会では分科会担当がなくなり、当日のひだカフェのお手伝いという参加型の体験で楽しんで参加させていただきました。連合会への派遣では、トイレをテーマにした基調講演に感動し、改めて連合会の魅力を再確認しました。

委員会では、委員同志の仕事紹介と題して1名ずつ自身の仕事、趣味などの紹介をして質問を受けて意見交換するという、委員だけが楽しい企画で盛り上がりしました。また、各家庭の住居の造りと高熱費を毎月の

データに記録して、比較はできないし集約もできないのですが来年度も続けてみることにしました。R7年は引き続き継続の事業に加え、士会の予算を使わずに収益を生み出せる企画が出来ないかと検討しています。また、自己負担があっても活動する気持ちでいる委員もいます。今後も活躍の場を広げ、女性ならではのコミュニケーション力で地域に根差した活動と、建築士として研鑽を深め、資質の向上を目指したいと思っています。

災害対応委員会

令和7年度の計画

委員長
土田 浩貴



いつも災害対応委員会の事業にご理解とご協力頂きまして会員の皆様には感謝申し上げます。今年度も災害対応委員会は北海道知事認定応急危険度判定士机上訓練を実施予定です。道内の応急危険度判定士は平成11年をピークに減少傾向にありま

す。平成11年5,240名の登録がありましたが令和6年には約半数の2,558名となっています。支部単位での認定講習会も行いますので気軽に声をかけてください。講習会時に参加された皆様をお願いしております被災地応急支援ネットワーク登録も行っています。これは震災があった場合に北海道からの応急危険度判定の要請があった場合、被災地での応急危険度判定の派遣に対応できるかどうかを登録者へ一斉にMLでお知らせするというものです。こちらは昨年より

11名増えており令和6年末時点で283名となっています。昨年の1月1日に石川県で発生しました能登半島地震では北海道から10名の派遣登録をし、待機しておりましたが現地の状況などで派遣無しとなりました。派遣要請にご協力いただいた会員の方々ありがとうございます。この場をお借りしてお礼申し上げます。今後も応急危険度判定士が少しでも増えるように、こつこつと講習会を行いますので参加お待ちしております。今後ともよろしくお願致します。

会員増強特別委員会

魅力ある建築士会とは

委員長

後藤 朋恵



会員増強は建築士会に限らず、いろいろな会で呼びかけられています。グループよりも個の活動を優先する世代に対して、魅力ある建築士会をアピールして建築士会への入会を呼びかけたいところです。では、会員であることのメリットは何でしょうか？どんな魅力があります

か？と問われた時、何と答えますか？すでに活動している会員の方々はほぼボランティアで仕事の時間を割いて活動しています。その原動力は何なのでしょう？人との出会いから生まれるコミュニケーション、セミナーなどから得られる情報、自身の研鑽はもちろんです。その他に委員会活動を通して社会貢献できた体験が何よりも魅力になっているのではないかと思います。自身のスキルを生かし、士会のネットワークを通して、さまざまな活動、例えば、災害に対する被災地支援に関するこ

と、歴史的建造物への保全、住教育セミナーの実施など、自身が一歩踏み出し、参加することで誰かのお役に立てる経験は、自身も成長できる貴重な体験だと思います。この活動を広めていくことが士会への理解、魅力の拡散に繋がるのではと思います。年に1回開催される全建女では、全国的女性建築士の社会貢献活動が発表され、刺激を受けます。ただ、士会全体はまだまだ男性社会です。女性が増えることで多様な発想が生まれることを願っております。

ヘリテージマネージャー特別委員会 令和7年度活動の抱負

委員長

杉山 友和



ヘリテージマネージャー特別委員会委員長の杉山です。皆様にはいつも当委員会の活動にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。昨年度は、当委員会のメイン事業となっております「北海道ヘリテージマネジメント専門職育成講座」を、運営上の問題から開催することが出

来ませんでした。本年度は講座の開催方法や諸々見直し等も含め、何としても講座の開催に漕ぎ着け、ヘリテージに関する人材を増やして参りたいと考えております。また、ヘリテージ関係者のネットワーク作りについても、連合会からの要望がある「歴史的建造物の被災時における調査体制構築」にも繋がるよう具体的な体制構築を目指し、更に検討を進めて参ります。もう1点力を入れて取り組みたい活動は、歴史的建造物の調査・評価の活動です。官民に関わらず当委員会にご相談いただきま

した案件を、ヘリテージ受講生の力もお借りすることによりスキルアップの場としても活用をしつつ、ヘリテージマネージャーとしての実績を積み上げ、社会に寄与して参ります。昨年は新委員長に就任し1年目でしたが、私自身の力不足を感じる事が多々ありました。昨年の反省点を踏まえ、本年度は委員会としての力を存分に発揮できるよう活動して参ります。本年度も何卒よろしく願います。まだ、ヘリテージマネジメント専門職育成講座を未受講の方も、是非、受講ください。

BIM推進特別委員会

広聴型から参加型へ

委員長

大門 浩之



例年通り開催しているdoBIMセミナーは開始以来28回を数えました。改めて講師の方の名を眺め、北海道だけでやるのはもったいない方々に協力いただいているなど思いました。今後も継続しますが、情報を一方的に提供するセミナーは頻度を減

らし、代わりに参加型セミナーに注力したいと考えています。その一つが、昨年開催した「BIM寺子屋」です。参加者の知りたいことに答える形式でのハンズオンセミナーは、初心者にとってはBIMを使用するきっかけとなり、中上級者にとっては実務での課題解決の場として有意義な取り組みだったと感じています。アンケートでの受講満足度は95%を超え、毎月やってくれ、との声もありました。今年も複数回の開催を予定しています。

また、昨年より他団体連携強化に取り組み、北海道建築士事務所協会との共催で開催できました。今年も一層連携に力を入れ、北海道全体でBIMを盛り上げていきます。

最後に、2026年春より「BIM図面審査」が開始されます。昨年、BIM推進会議内で「BIM図面審査ガイドライン（素案）」、「設計者チェックリスト（素案）」が公開され、BIMを活用した確認申請の内容が徐々に明らかになってきています。準備はお早めに！

地域貢献活動センター委員会 新しいこと始めませんか

委員長

工藤 美智子



当委員会は「北海道建築士会地域貢献活動基金」を適正に運用する為に、助成対象事業及び助成額について客観的かつ公平に選考する為にあります。

基金を利用するには、建築士会に1年以上継続在籍している会員（2

名以上）がいる活動団体の代表者、又は士会会員で構成された任意グループの代表者が助成申請をする必要があります。任意グループでするので現存する委員会とは関係のない仲間づくりも可能です。

助成対象事業は、営利を目的としない「地域貢献・まちづくり活動」で助成限度額は1件20万円（予算範囲内）です。会場費、広報費、講師謝金や交通費に充てることが出来ます。募集期間は、毎年1月1日から9月30日迄です。申請書・事業計画

書・予算書などを提出していただくと、当委員会が選定基準に従い選考させていただきます。詳しい助成対象事業（9テーマ）、申請書の様式などは道士会HPで公開しています。過去の助成事業の紹介も掲載しています。

せっかくの基金ですのでどんどん活用させていただき、地域の活性化や住教育、景観保全や防災活動などを通して、仲間の輪も広げていきましょう。

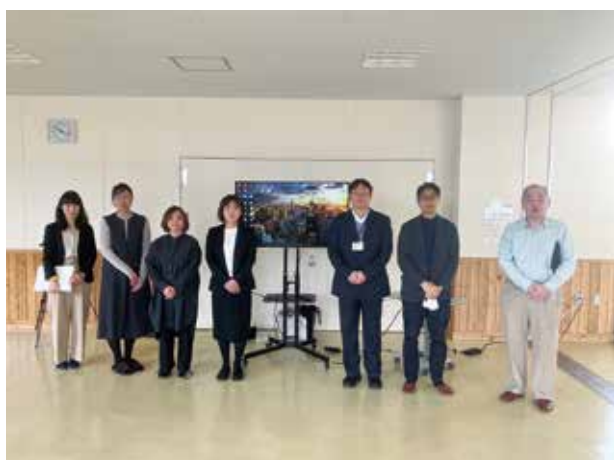
ご不明な点は士会事務局にお問い合わせください。

パズルで住まいを考えよう アップデート完了!

青年委員 小林 祐 司 (札幌支部)



私たち北海道建築士会札幌支部青年委員会では2021年から住教育をテーマとした建築士による出前「パズルで住まいを考えよう」を実施しています。この住教育事業のために専用アプリケーションを開発しましたが、令和6年度に大きくアップデートすることを計画し、更に新しく完成したアプリケーションを使用した出前授業を実施してまいりましたのでご報告いたします。



出前授業開催に協力していただいた皆さん

アップデートするにあたって必要とされる機能、追加したい機能、改善したい部分を青年委員会で話し合いまとめました。アップデートには多額の費用がかかりますが、北海道建築士会特別活動費助成事業と札幌支部から必要な資金の協力を得ることができたため、アップデート計画をスタートさせることが出来ました。アプリケーション開発の協力者である株式会社ロケットスタジオ様とおよそ9カ月に渡って綿密に打ち合わせを重ね、何度も修正をお願いし12月上旬にアップデート作業は完了いたしました。内容は以下の3つです。

- ① 作成した間取りの保存機能
- ② 壁・建具の表現機能
- ③ 全てのパーツをオリジナルデザインに変更

これらのアップデートにより、更に充実した住教育へとレベルを上げることが可能になりました。アップデートを終えて間もなく、令和6年12月20日に北見市立高栄小学校6年1組2組計43名の児童を対象とした「パズルで住まいを考えよう」出前授業を実施しました。この出前授業の開催にあたって北見支部女性委員会の皆様には大変なご助力をいただきました。改めて御礼申し上げます。



新バージョンのアプリによる間取り作成例

授業の内容や構成について大きな変更はありませんが、後半の間取り作りはいよいよ新バージョンの出番となります。機能が充実したことにより操作方の難易度が上がっている分、苦勞している児童が見受けられましたが、建築士のサポートを受けながら着実に間取りを作成している様子でした。



皆で記念撮影

授業の最後には自分たちが作成した間取りを発表してもらい、どんな所を工夫したかななどを説明して終了となります。子供達が楽しそうに授業に取り組んでいる姿が印象的でした。新バージョンアプリの利用は既に各所で始まっています。室蘭支部様が室蘭市立みなと小学校6年生3クラスを対象に出前授業を実施し、島根県建築士会様にもイベントで利用していただいております。今後アプリの利用を全国に広めるべく、色々と計画を練っております。引き続き皆様のご支援、ご協力をお願いいたしますとともに、本事業にご期待いただけますと幸いです。末筆ではございますが今回のアップデート並びに出前授業開催にあたってご協力いただきました関係各所の皆様にこの場をお借りして御礼申し上げます。

令和6年 道建士会特別活動費助成事業 (仮称) 古い建物と新しい建物の魅力を再発見、街歩きツアー

女性委員 川 田 朱 (旭川支部)

旭川支部 女性委員会では、毎年、社会貢献事業を実施しています。対象は子供から大人まで幅広く、やりたいこと・やってみたいことの企画はたくさんあります。今回、令和6年北海道建築士会特別活動費助成事業に応募する機会を頂き、以前から温めていた「まち歩き」をチョイスしました。事業計画を具体的に立てるのはとても大変ですが、女性委員から魅力的な意見がたくさんあがり実行可能な計画へと発展させることができました。申請が通った時は、嬉しさと同時に事業の大きな課題である『集客』という言葉がプレッシャーとして重くのしかかってきました。大切な予算なので、閑古鳥が鳴くことがないようにという思いが強かったです。



必見！駅中展示の四叉柱

旭川市には、たくさんの魅力があります。一番の魅力は、旭川買物公園（平和通買物公園）ではないでしょうか。私が小学生のときに社会科の授業だったと記憶しておりますが、教科書に『平和通買物公園』についての記載があったことに、こどもながらに、「え、有名なの？なぜ？」と思ったことを今でも思い出します。旭川市民、近隣住民の私たちは当たり前のように歩いているのですが、旭川平和通商店街様のホームページより文言をお借りしますと、『1972年6月1日から始まった日本で最初の歩行者専用道路です』。そうです……道路なのです。つまり、買物公園で実施している様々なイベント（旭川冬まつりや夏まつり、北の恵み食べマルシェなど）も、道路の使用にあたり警察署に相談・申請等が必要になります。建設現場などで仮設足場の設置時に、道路使用許可申請手続きなどされた経験がある方も多いかと思いますが、旭川買物公園も道路なのです。

さて、本題に戻りますが、事業の目的は建築士と建築士以外の交流でした。いつもと違った視点で日常では目に留まらない新たな気付きが発見できるのではという考えでした。又、新しく旭川支部に設置されたまちづくり特別委員会でも、まち歩きを企画しているとのお話があり、コラボしたことでより新しい企画へと進化できたことも、改めてこの場を借りて報告させていただきます。メイン講師には、旭川市の歴史に詳しい元NHK旭川放送局長で旭川郷土史ライターとしてご活躍の那須敦志様をお願いし、買物公園の歴史を盛り込んだシナリオを作成していただきました。午後からのまちづくり特別委員会の企画もあり、参加者が多数となったため、急遽、運営メンバー2名が講師に昇進。猛勉強していただき3班に分けたことで無事、全員でゴールできました。



曲がった電柱、知ってますか？

運営メンバーの協力はとても大きく、日常業務で多忙な中、何度も何度も会議し、試走を重ね、無事、当日を迎えることができました。心配していた天気にも恵まれ最高のウォーキング日和でした。

講師の皆様には限られた時間の中で、心に熱い思いを抱きつつ、時間の制約に追われながら懸命にお話しいただいたことと感謝しております。参加者の中には、一般参加で京都からきていた方もいて驚きました。デザインウィークの事業に参加できたのも成功の要因だったと思います。

次年度以降も、旭川市の魅力を再発見できる身近なイベントを目指し企画していきたいと考えておりますので、是非、全道・全国の士会員、賛助会員の皆様にもご家族やご友人もお誘いいただき、ご参加いただければと、予告のみさせていただきます。

『わたしの仕事を伝える会』

わたしの仕事を伝える会 吉田幸恵 (室蘭支部)



室蘭工業大学内の『TENTO』というカフェを拠点に、地域課題解決を目的として活動するNPO法人 ten to tenが市民向けのイベント・地元企業との共創事業など活動している。一昨年になるが学生向けに『業界で働く女性と座談会』という企画に呼んでいただき自分の仕事や歩んできた道のりについて話す機会を頂いた。その際に感じた学生達の漠然と描く疑問や不安などを少しでも解消できることが出来ないかと考えていた。また所属する女性委員会会議時に各委員持ち回りで、自分の仕事内容や人となりを紹介する時間を設けている。皆さんそれぞれの個性や魅力が多く詰まった内容で毎回心踊る。この内容を若い世代に知ってもらいたいという気持ちも相まって、今回、『わたしのしごとを伝える』を企画し、NPOに所属する学生と打合せして進めていった。札幌の女性建築士3名に登壇していただき、今までの道のりや現在の仕事内容をスライドを使用し説明してもらい、その後3つのテーブルに分かれてトークセッションをする構成とした。数年前に卒業した竹内さんからは、学生時代にご自身で活動していた公園でのイベントや卒業後の進路・現在の仕事などの話があった。公務員から転身し、インテリア雑貨の本も出版されたり、個人のお客様から建築会社との提携など、幅広くインテリアデザインやコーディネートを手掛ける新海さん。サッシメーカーの図面作成からキャリアをスタートし、子育てしながら、輸入住宅の設計やマンションのインテリアデザインなどを行ってきた後藤さん。お三方ともとても魅力的で精力的に仕事や様々な活動をしている。



竹内さんによる説明

告知・集客は結構困難であった。担当の学生からも事前に聞いていたこともあり、チラシを作成し大学内に掲示の他、近隣高校全校へ配布、進路担当の先生へ生徒に告知をお願いし、専門学校先生や高校生のいる知人にDMを送った。結果は定員20名で11名の参加者となった(社会人1名含む)アンケート結果では、チラシを見て参加をしたのは1名というもので、それ以外は「知人の案内で参加した」が多数を占めた。告知方法は再考する必要があると痛感

した。内容に戻るが、講師の方の説明、トークセッションは概ね良好な感触、アンケート結果は以下となった。

- ・建築関係の仕事に興味があった訳じゃなかったけど、建築には設計以外にもたくさんの分野があることが知れてとてもいい経験になった。
- ・色々な話が聞けて、沢山知ることが出来たり、ワクワクして楽しかった。
- ・将来のビジョンがよりはっきりしたと思います。
- ・インテリアデザインなどに興味があったので詳しく聞けて凄く楽しく将来について考えることができました!!
- ・独立されてる方のリアル(金銭面や営業面)が聞けて面白かった。
- ・やっぱり実際に仕事している方の話を聞いて、想像と違ったところもあったし、逆に今のうちにしておいた方がいい事も知れたため、参加してよかった。
- ・あまり建築の仕事がわかっていなかったけど初めて知ることいっぱい楽しかったです!
- ・一つの環境にこだわらずにさまざまな経験をしてきた皆さんがカッコいいと思いました。建築関係の仕事は繋がりや経験が多く関わる面白い世界だと感じました。
- ・自分の知らない建築の世界が広がった気がしました。可能性の塊である参加者に少しでもお役に立てたかと思うと嬉しい限りである。建築士会に入り講師となってくださった方達と出会って、とても嬉しくもあり、誇りに思っている。ご自身の行きたい方向へ歩みつつけている話や仕事の楽しさが伝わり、参加者に知ってもらえたのも嬉しく思う。私自身も前回の座談会で自分のこれまでを振り返り、業務や子育て・その他活動に没頭してきた日々を棚卸しでき、今後の方向性を考えるいいきっかけになった。建築士会には、設計者・施工者・工務店経営者・職人さん・建材メーカー勤務・行政関係や教育関係の方など広範囲の方が会員であり様々な角度から建築に関わる仕事をしている。中にいるとわかりづらいが外から見える『様々な場で活躍する建築士の集団』はもっと社会に役立てるはずと感じている。またより多くの建築士の仕事や素顔をもっと知りたい。と感じた企画となった。



トークセッションの様子

余市支部

古平支部の解散に思う

事務局員

二木 二郎



この度、古平支部が会員の高齢化と会員数の減少により令和6年末をもって70年間の歴史に幕を閉じ、余市支部と統合することとなりました。この会誌が発刊される頃には、両支部が統合後初めての支部総会を終えているはずですが。

古平支部と余市支部は北後志に位置する隣り合った支部で、古平支部が、古平町と積丹町、余市支部が余市町、仁木町及び赤井川村の、合わせて5つの町村をカバーしており、昭和27年の北海道建築士会の創立から3年後の、昭和30年（1955年）8月に「古平建築士会」、10月に「余市建築士会」がそれぞれ設立されました。

当時の日本は戦後からの復興途上であり、「三種の神器」として白黒テレビ、冷蔵庫、洗濯機が普及した時代だそうで、両支部の歴史の長さをうかがい知ることができます。

支部設立当時は全国的にはまだ人口が増加傾向にある時代でした

が、北後志の町村部では既に少子高齢化による人口減少が始まっており、当時、この5町村の合計で5万8千人を超えていた人口もその後、右肩下がり減少が続き、現在では2万7千人を下回り、当時の半分以下にまで落ち込んでおります。

この間、各地域にあった建設会社や建築設計事務所もかなりの数が廃業され、今では、管内に建てられる住宅のほとんどが道内大手や全国展開しているハウスメーカーによるものとなってしまっております。

さらに、近年の建築技術者の人手不足は地方ではさらに深刻で、民間企業、公務員共に、建築職員の募集をかけても一人の応募も無いことは珍しくなく、必然的に建築士会の支部会員数も減少が続いています。

私が建築士会に入会した平成11年当時の余市支部は、会員（年会費1万円）が41名、さらには賛助会員（年会費1万2千円）も24社にのぼり、活動費も潤沢で総会後の懇親会等も盛大に開催されていた記憶がありますが、現在では古

平支部と統合した上でも会員数23名、賛助会員は5社となり、会員の平均年齢は実に58歳という現状です。

このような状況で、従来の活動が困難となってきているのは小規模支部の共通の悩みだと思いますが、当支部も今後どのような活動を行うべきか模索中です。

しかし各地域には、地域の歴史や実情を知り地元で根ざした建築士の知識や経験、さらには士会活動で得た横の繋がり等を活かすことが今後も必要とされているはずですが。

住民参加の考えが定着し、行政が実施する各種計画の策定や各種審議会等への建築士の立場での参画要請等も増えてきており、支部会員が仕事の合間を縫ってそれぞれの場面で活動されている状況を見ますと、小所帯であっても支部を持続させ次世代にバトンを繋ぐ責任を感じるどころであり、これからの建築士会の目的に立ち返った上で、身の丈にあった活動を可能な限り継続していきたいと思っております。

紋別支部

紋別支部の近況

事務局長

鈴木 光彦



新年明けましておめでとうございます。昨年を振り返りますと、元旦に能登半島地震、夏には、猛暑や豪雨災害など、大規模災害が相次ぎ、南海トラフ地震臨時情報が発表されるなど、今後の防災体制、災害対応について、考えさせられました。本会の災害対策委員会の活動がより重要になってくると感じております。

支部活動の振り返りとしましては、新型コロナの影響を受けて中止していた事業を少しでも再開していく思いで取り組みました。会員の交流を目的とした事業として、パークゴルフコンペ、ボウリング大会を企画しました。ボウリング大会は、新規事業として企画したところ、いつもとは違う顔ぶれを見ることができました。青年部事業としては、建築士のお仕事

体験イベントや紋別市商工会議所が主催する「ちびっこワークフェス」へ参加するなど、少しずつではありますが、支部の活動が活発になってきたところです。しかしながら、会員数は年々減少しており、令和6年末では40名となり、10年前と比べますと2割程度減少しており、今後の支部活動に影響がでてきそうです。

昨年の全道大会では、会員増強について対話させていただきました。どの支部も、年々会員数が減少している中で、会員増強に資する事業を企画しているようですが

「これが答えだ！」というものはもちろんなく、まずは、既存事業の継続や内外に向けた情報発信、会員としてのメリットを感じてもらうことが大切と感じました。

今年は、10年ぶりの道東地区での全道大会「中標津大会」があることから、いつもより多くの支部会員で参加し、盛り上げていきたいと考えております。また、支部の取り組みも昨年以上に活発にしていきたいと考えております。

本年が皆様にとりまして、素晴らしい年となりますよう心からお祈り申し上げます。



ボウリング大会



建築士のお仕事体験イベント

道士会の動き

(一社)北海道建築士会 支部解散のお知らせ

本会古平支部が令和6年12月末に解散し、古平支部所属会員は余市支部へ異動となりますことのお知らせいたします。

本部の主な会議報告 (1月)

◆第1回青年委員会

〈開催日〉11日(土)

- 1) 令和6年事業報告・決算報告、令和7年事業計画・予算
- 2) 全道青年委員会連絡会議
- 3) 青年建築士の集い
- 4) 全道大会青年サミット

◆第1回BIM推進特別委員会 (Web)

〈開催日〉27日(月)

- 1) 令和7年事業活動計画
- 2) 委員会開催スケジュール

本部の主な行事予定 (2月)

21日(金) 第1回総務企画委員会

22日(土) 第1回女性委員会

建築士試験「設計製図」合格者 (北海道)

	実受験者	合格者	合格率
一級建築士	243名	51名	21.0%

“会員専用ページ”でオンデマンド配信中!



- 視聴方法：北海道建築士会HPの上記「会員専用ページ」をクリックしパスワードを入力
- 2月パスワード：Kus052

編集後記

皆さま、年末年始のお休みはどのようにお過ごしでしたでしょうか？ 暦の関係で長期休暇の方、多かったのではないのでしょうか？ 12月からインフルエンザなど感染症が猛威を振るっているようですが、私も年末休暇前に発症し、長～い休暇となってしまいました。年の瀬は仕事・忘年会などで抗体が落ちる時期、改めてマスクの着用・うがい・手洗いや飲食を制御し体調管理が重要と思い知らされました。

さて、会誌では昨年の経験や反省から、今年度への新たな希望や願いが読み取れます。今年は体調には気を付け一生懸命、頑張っていきたい。 情報委員会 奈良岡 修 (札幌支部)

講習会・セミナーのご案内 (2月)

監理技術者講習

19日(水) 札幌市

27日(木) 函館市、旭川市

応急危険度判定士認定講習会

4日(火) 札幌市

建築基準法講習会

5日(水) 新ひだか町

6日(木) 網走市

7日(金) 滝川市、北見市

13日(木) 旭川市、小樽市

14日(金) 富良野市、岩見沢市、倶知安町

19日(水) 北斗市

20日(木) 江差町、室蘭市

21日(金) 苫小牧市

26日(水) 札幌市、稚内市

27日(木) 帯広市

28日(金) 釧路市

CPD認定プログラム(1月認定)

◆令和6年度第3回建築基準法及び建築物省エネ法改正に係る講習会

《日程及び会場》2月6日(木) 13:30~16:50
宗谷総合振興局 (稚内市)

《単位数》 3単位

《問合せ先》

(一社)北海道建築士会宗谷支部 TEL 0162-33-4956

◆防水WEBセミナー2025

《日程及び会場》2月18日(火) 15:00~16:00
オンライン

《単位数》 1単位

《問合せ先》

田島ルーフィング(株) TEL 011-221-4014

◆北海道の建築技術向上のための講習会

《日程及び会場》2月26日(水) 10:00~15:00
札幌国際ビル (札幌市)

《単位数》 4単位

《問合せ先》

(一社)北海道建設業協会 TEL 011-261-6185

情報委員会委員長/前田 繁
副委員長/村山 賢司・立花智亜喜
委員/角張 隆昌・津山 浩
奈良岡 修

北海道建築士 No.330号

印刷 令和7年1月/発行 令和7年2月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会
〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
大五ビル
電話 (011) 251-6076番
URL <https://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎
〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目
電話 (011) 811-7151番